

サービス	ユースケースNo.	ユースケースNo.	誰が		いつ	どこで				なんの情報を					どのように		どうする	モビリティ	認証技術の要件		認証方式の案	
			職種	対象人数の規模		状況	アクセスする場所	ネットワーク	閲覧文書の保存先	情報の持ち主	種類	情報の機密度	一度に閲覧される規模	認可の範囲	デバイス	専用・私用			目的	時間的制限	その他	ID登録
①保健医療記録共有サービス	①-2	①-1	医師	約30~40万人	初診・他院からの患者受け入れ時	病院	公共 (暗号化あり)	他の病院の電子カルテシステム	新規の患者	電子カルテ	B	1名~数名	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	院内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-a	診療の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	医師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定)	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-3	①-2	医師	約30~40万人	介護師との連携が必要な高齢者担当時	病院	公共 (暗号化あり)	他の施設の介護業務システム	担当患者	介護記録	C	1名~担当患者数百人程度	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	院内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-b	診療の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	医師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定)	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-6	①-3	看護師	約160~170万人	初診・他院からの患者受け入れ時	病院	公共 (暗号化あり)	他の病院の電子カルテシステム	新規の患者	電子カルテ	B	1名~数名	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	院内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-a	診療の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	看護師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定)	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-7	①-4	看護師	約160~170万人	介護師との連携が必要な高齢者担当時	病院	公共 (暗号化あり)	他の施設の介護業務システム	担当患者	介護記録	C	1名~担当患者数百人程度	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	院内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-b	診療の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	看護師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定)	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-10	①-5	訪問看護師	約4~5万人	訪問時	訪問先	公共 (暗号化あり)	他の病院の電子カルテシステム	新規の患者	電子カルテ	B	1名~数名	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	タブレット	専用	閲覧のみ	①-a	診療の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	二要素認証 (端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定) - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-11	①-6	訪問看護師	約4~5万人	訪問時	訪問先	公共 (暗号化あり)	他の施設の介護業務システム	担当患者	介護記録	C	1名~担当患者数百人程度	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	タブレット	専用	閲覧のみ	①-b	診療の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	看護師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定) - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-15	①-7	介護従事者	約90~100万人	通常サービス提供時(施設系)	施設	公共 (暗号化あり)	医療機関の電子カルテシステム	担当高齢者	電子カルテ	B	1名~担当患者数百人程度	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	施設内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-c	介護業務の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	介護士の個人認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当高齢者の特定 (認可範囲の設定) - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (介護従事者のITリテラシーに配慮)	組織ID及び公的個人認証 又は 組織ID及び顔写真付きの身分証	クライアント証明書及び生体認証	
	①-16	①-8	介護従事者	約90~100万人	通常サービス提供時(施設系)	施設	公共 (暗号化あり)	医療機関の電子カルテシステム	担当高齢者	電子カルテ	B	1名~担当患者数百人程度	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	タブレット	専用	閲覧のみ	①-c	介護業務の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	介護士の個人認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当高齢者の特定 (認可範囲の設定) - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (介護従事者のITリテラシーに配慮)	組織ID及び公的個人認証 又は 組織ID及び顔写真付きの身分証	クライアント証明書及び生体認証	
	①-19	①-9	訪問介護士	約13~14万人	通常サービス提供時(訪問系)	訪問先	公共 (暗号化あり)	医療機関の電子カルテシステム	担当高齢者	電子カルテ	B	1名~担当患者数百人程度	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	スマートフォン	専用	閲覧のみ	①-c	介護業務の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	介護士の個人認証 - 二要素認証 (端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当高齢者の特定 (認可範囲の設定) - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (介護従事者のITリテラシーに配慮)	組織ID及び公的個人認証 又は 組織ID及び顔写真付きの身分証	クライアント証明書及び生体認証	
	①-20	①-10	訪問介護士	約13~14万人	通常サービス提供時(訪問系)	訪問先	公共 (暗号化あり)	医療機関の電子カルテシステム	担当高齢者	電子カルテ	B	1名~担当患者数百人程度	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	タブレット	専用	閲覧のみ	①-c	介護業務の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	介護士の個人認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当高齢者の特定 (認可範囲の設定) - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (介護従事者のITリテラシーに配慮)	組織ID及び公的個人認証 又は 組織ID及び顔写真付きの身分証	クライアント証明書及び生体認証	
	①-22	①-11	薬剤師	約16~17万人	処方箋受付時	薬局	公共 (暗号化あり)	他施設の薬歴システム	来院患者	薬歴	B	1名~数名	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	施設内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-a	業務の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	薬剤師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定)	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-23	①-12	薬剤師	約16~17万人	疑義照会時	薬局	公共 (暗号化あり)	医療機関の電子カルテシステム	来院患者	電子カルテ	B	1名~数名	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	施設内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-a	業務の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	薬剤師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定)	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-24	①-13	訪問薬剤師	約3~4万人	訪問時	訪問先	公共 (暗号化あり)	自施設の薬歴システム	担当患者	薬歴	B	1名~数名	担当患者 (患者自身がポータルサイトにて閲覧許可)	タブレット	専用	閲覧・更新	①-a	業務の合間に発生するため、目安として10秒程度のレスポンスが求められる	薬剤師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定) - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード	
	①-34	①-14	患者	約200~250万人	閲覧履歴の確認、開示範囲を設定	自宅	公共 (暗号化あり)	ポータルサイトの設定/ポータル	本人	閲覧歴、開示範囲設定等	B	1名	自身の情報	個人のタブレット・スマートフォン	私用	閲覧・更新	①-d	医療履歴を行う目的ではないため、医療履歴の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	個人単位の認証 - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術 - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (家族の情報のみ)	公的個人認証 又は 顔写真付きの身分証	パスワード及び指紋認証	
	①-35	①-15	患者家族	約200~250万人	患者に代わり、閲覧履歴の確認、開示範囲を設定	自宅	公共 (暗号化あり)	ポータルサイトの設定/ポータル	家族	閲覧歴、開示範囲設定等	B	1名	自身又は患者	個人のタブレット・スマートフォン	私用	閲覧・更新	①-d	医療履歴を行う目的ではないため、医療履歴の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	個人単位の認証 - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術 - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (認可範囲の設定 (家族の情報のみ))	公的個人認証(自身と患者)及び本人の同意書 又は 顔写真付きの身分証及び本人の同意書	パスワード及び指紋認証	
	②救急時医療情報共有サービス	②-2	②-1	かかりつけ医	約30万人	通常診療時に緊急時の対応を確認する	病院	公共 (暗号化あり)	他の医療機関の電子カルテシステム	担当患者	電子カルテ	B	1名~担当患者数百人程度	担当患者	院内のパソコン	専用	閲覧のみ	①-a	救急救命を行うため、通常診療よりも時間的制限は大きい。(10秒未満)	医師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定) - 私有端末でも利用できるソフトウェア・ウェアなど。	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード
		②-3	②-2	救急搬送先の医師	約3000人	緊急搬送時に患者の基礎データや既往歴等を確認する	病院	公共 (暗号化あり)	他の医療機関の電子カルテシステム	来院患者	電子カルテ	B	1名	搬送された患者	院内のパソコン	専用	閲覧のみ	②-a	救急救命を行うため、通常診療よりも時間的制限は大きい。(10秒未満)	医師の資格認証 - 二要素認証 (入域時・端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定) - 私有端末でも利用できるソフトウェア・ウェアなど。	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	クライアント証明書及び生体認証
		②-5	②-3	救急隊員	約6万人	救急搬送中の患者情報の確認	救急車	公共 (暗号化あり)	他の医療機関の電子カルテシステム	搬送患者	電子カルテ	B	1名	搬送された患者	救急車内のタブレット端末など	専用	閲覧のみ	②-a	救急救命を行うため、通常診療よりも時間的制限は大きい。(10秒未満)	医師の資格認証 - 二要素認証 (端末利用時を含めて二要素以上の認証が行われていれば二要素認証同等) - 担当患者の特定 (認可範囲の設定) - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術	HPKICard 又は 顔写真付きの身分証及び資格を示す情報	クライアント証明書及び生体認証
		②-6	②-4	患者	約200~250万人	自身の医療情報を医師や救急隊員に見せる	病院・救急車内	公共 (暗号化あり)	他の医療機関の電子カルテシステム	本人	電子カルテ	B	1名	自身の情報	個人のスマートフォン・タブレット	私用	閲覧のみ	②-b	救急救命を行うため、通常診療よりも時間的制限は大きい。(10秒未満)	個人単位の認証 - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術 - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (認可範囲の設定 (家族の情報のみ))	公的個人認証 又は 顔写真付きの身分証	パスワード及び指紋認証
		②-7	②-5	患者家族	約200~250万人	家族の医療情報を医師や救急隊員に見せる	病院・救急車内	公共 (暗号化あり)	他の医療機関の電子カルテシステム	家族	電子カルテ	B	1名	自身又は患者	個人のスマートフォン・タブレット	私用	閲覧のみ	②-b	救急救命を行うため、通常診療よりも時間的制限は大きい。(10秒未満)	個人単位の認証 - 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術 - 利用者側に負担なく簡単に利用できるもの (認可範囲の設定 (家族の情報のみ))	公的個人認証(自身と患者)及び本人の同意書 又は 顔写真付きの身分証及び本人の同意書	パスワード及び指紋認証

サービス	ユースケースNo.	ユースケースNo.	誰が		いつ	どこで			なんの情報を				どのように			モデル番号	認証技術の要件		認証方式の案		
			職種	対象人数の規模		状況	アクセスする場所	ネットワーク	閲覧文書の保存先	情報の持ち主	種類	情報の機密度	一度に閲覧される規模	認可の範囲	デバイス		専用・私用	目的	時間的制限	その他	ID登録
③個人や事業主に健康情報を提供するサービス	③-1	③-1	個人	数千万人～全国民	自身の健康診断結果を確認する	自宅	公共 (暗号化あり)	PHRクラウド	本人	①姓・名・出生地、②疾病・介護予約、③生活習慣・薬歴・検査結果などの情報	B	1名	自身の情報	個人のパソコン	私用	閲覧のみ	③-a	医療処置を行う目的ではないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	個人単位の認証 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術 ・利用者側へ負担なく簡単に利用できるもの	公的個人認証 又は 顔写真付きの身分証	パスワード及び指紋認証
	③-2	③-2	個人	数千万人～全国民	自身の健康診断結果を確認する	自宅	公共 (暗号化あり)	PHRクラウド	本人	①姓・名・出生地、②疾病・介護予約、③生活習慣・薬歴・検査結果などの情報	B	1名	自身の情報	個人のタブレット・スマートフォン	私用	閲覧のみ	③-a	医療処置を行う目的ではないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	個人単位の認証 持ち運びが可能で、外出先でも認証可能な技術 ・利用者側へ負担なく簡単に利用できるもの	公的個人認証 又は 顔写真付きの身分証	パスワード及び指紋認証
	③-7	③-3	事業主 (人事職員)	約50万人	健康スコアリングレポートを確認する。	事業所内	公共 (暗号化あり)	日本健康会議、又は厚生労働省のシステム内?	従業員	健康スコアリングレポート (匿名化された加工された健康、医療費情報)	D	数百～数千人 (匿名化)	自社の情報	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	③-b	医療処置を行う目的ではないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 個人単位の認証 ・従業員の特定 (認可範囲の設定)	企業保有のAD又は、既存の健康保健組合のポータル 再度の利用に必要な仕組み	企業保有のAD又は、既存の健康保健組合のポータル 再度の利用に必要な仕組み
	③-8	③-4	事業主 (産業医)	約1000人	健康スコアリングレポートを確認する。	事業所内	公共 (暗号化あり)	日本健康会議、又は厚生労働省のシステム内?	従業員	健康スコアリングレポート (匿名化された加工された健康、医療費情報)	D	数百～数千人 (匿名化)	自社の情報	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	③-b	医療処置を行う目的ではないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 個人単位の認証 ・従業員の特定 (認可範囲の設定)	企業保有のAD又は、既存の健康保健組合のポータル 再度の利用に必要な仕組み	企業保有のAD又は、既存の健康保健組合のポータル 再度の利用に必要な仕組み
④健康・医療・介護のビッグデータを個人単位で連結し解析できるサービス	④-1	④-1	研究者 (アカデミア)	約13~14万人 (アカデミア以外も含む)	研究時	事業所内	公共 (暗号化あり)	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベース	国民	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベースに保存された情報を匿名化したもの	D	数万～数十万人 (匿名化)	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	④	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
	④-2	④-2	研究者 (製薬企業など)	約30000人	製品開発時	事業所内	公共 (暗号化あり)	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベース	国民	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベースに保存された情報を匿名化したもの	D	数万～数十万人 (匿名化)	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	④	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
	④-3	④-3	行政	検討中	統計解析時	事業所内	公共 (暗号化あり)	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベース	国民	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベースに保存された情報を匿名化したもの	D	数万～数十万人 (匿名化)	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	④	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
	④-4	④-4	サービス開発者 (民間)	約13~14万人 (アカデミアも含む)	サービス開発時	事業所内	公共 (暗号化あり)	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベース	国民	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベースに保存された情報を匿名化したもの	D	数万～数十万人 (匿名化)	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	④	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
⑤科学的介護のデータベース活用	⑤-1	⑤-1	介護事業者	約90~100万人	自社の介護の効果検証時	事業所内	公共 (暗号化あり)	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベース	自社の顧客	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベースに保存された情報を匿名化したもの	D	最大で650万人 (匿名化)	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	⑤	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
	⑤-2	⑤-2	行政	検討中	介護の効果についての調査時	事業所内	公共 (暗号化あり)	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベース	国民	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベースに保存された情報を匿名化したもの	D	最大で650万人 (匿名化)	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	⑤	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
	⑤-3	⑤-3	研究者	約13~14万人 (アカデミアも含む)	介護の効果についての研究時	事業所内	公共 (暗号化あり)	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベース	国民	NDB、DPC、介護し、電子カルタなど様々なデータベースに保存された情報を匿名化したもの	D	最大で650万人 (匿名化)	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	⑤	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
⑥がんゲノム情報の利活用サービス	⑥-1	⑥-1	研究者 (大学、製薬等)	検討中	統計解析時	研究施設内	閉域	がんゲノム情報管理センター内、がんゲノム情報ポータル	国民	がんゲノム情報、がんの治療履歴、転写情報	A	数十万人～数百万人	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	施設内のパソコン	専用	閲覧のみ	⑥	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード
	⑥-2	⑥-2	がん解析事業者	検討中	がんシークエンス実施時	事業所内	閉域	がんゲノム情報管理センター内、がんゲノム情報ポータル	国民	がんゲノム情報	A	数十万人～数百万人	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	事業所内のパソコン	専用	閲覧・解析・ダウンロード	⑥	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード
	⑥-3	⑥-3	がんゲノム診療支援事業者	検討中	統計解析時	事業所内	閉域	がんゲノム情報管理センター内、がんゲノム情報ポータル	国民	がんゲノム情報、がんの治療履歴、転写情報	A	数十万人～数百万人	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	事業所内の (専用) パソコン	専用	閲覧・解析・ダウンロード	⑥	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード
	⑥-4	⑥-4	医師	1000~5千人程度	データ登録時	がんゲノム医療中核拠点病院	閉域	がんゲノム情報管理センター内、がんゲノム情報ポータル	国民	がんの治療履歴、転写情報	A	数十万人～数百万人	登録用の入力部分のみ	職場のパソコン	専用	閲覧・更新	⑥	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード
	⑥-5	⑥-5	看護師等、医療スタッフ	5000~2.5万人程度	データ登録時	がんゲノム医療中核拠点病院	閉域	がんゲノム情報管理センター内、がんゲノム情報ポータル	国民	がんの治療履歴、転写情報	A	数十万人～数百万人	登録用の入力部分のみ	職場のパソコン	専用	閲覧・更新	⑥	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	施設管理下の認証 (入退室、端末等) 及びパスワード
⑦AI開発基盤に必要なデータを収集し、利活用できるサービス	⑦-1	⑦-1	医師	検討中	データ登録時	病理医常勤拠点病院	公共 (暗号化あり)	日本病理学会データベース	国民	匿名化された、診断名、画像データ	D	数十万人～数百万人	登録用の入力部分のみ	職場のパソコン	専用	閲覧・更新	⑦	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
	⑦-2	⑦-2	看護師等、医療スタッフ	検討中	データ登録時	病理医常勤拠点病院	公共 (暗号化あり)	日本病理学会データベース	国民	匿名化された、診断名、画像データ	D	数十万人～数百万人	登録用の入力部分のみ	職場のパソコン	専用	閲覧・更新	⑦	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード
	⑦-3	⑦-3	AI研究者	検討中	統計解析時	研究施設内	公共 (暗号化あり)	日本病理学会データベース	国民	匿名化された、診断名、画像データ	D	数十万人～数百万人	すべてのデータ 又は研究に必要な範囲のみ	職場のパソコン	専用	閲覧のみ	⑦	医療処置を行う目的ではなく、使用頻度も少ないため、医療処置の場合(10秒程度)よりも時間的制限は小さい。	事業者単位の認証 研究者個人単位の認証 ・対象者の特定 (認可範囲の設定)	組織ID	パスワード

情報の機密性のグレード
A:ゲノム情報、B:要配慮個人情報、C:個人情報(要配慮以外)、D:匿名化情報